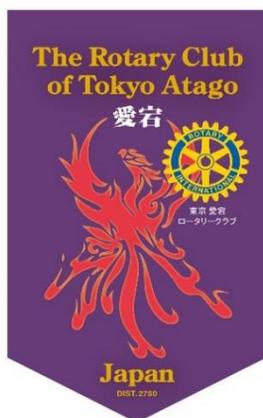


No. 2 2013/9/10

WEEKLY REPORT 2013~2014



東京愛宕ロータリークラブ

会長 尾関勇 ・ 幹事 佐藤秀樹
副会長 石渡美奈 ・ 副会長 片山謙次
副会長 波多野まみ
例会場 東京アメリカンクラブ
例会日 毎週火曜日 8:00~

■本日のプログラム

卓話スピーカー：元フジテレビアナウンサー
フリーアナウンサー

中井 美穂 様

テーマ「私のアナウンサーライフとこれから」

■9月3日（火）会長挨拶

会長 尾関 勇

晴れて、国際ロータリー本部より、第85374号の認証を頂きました。私たちはスタートしたばかりなので、ロータリーの原点とは何かを意識していきましょう。認証に対し、一人一人が審査をされ、社会的に迷惑をかけていないのか、この地区で、例会場も含めて活動ができるのか、厳格な審査をされたのですが、不思議なことに、8月21日の予備審査の段階から正式に本部へ送り、わずか5日ばかりで認証を頂き、大変早かったと思います。そのような厳格な審査の下、会員の方には、ロースターという名簿がありますが、これが大事で、各国際会議等でもありますがその人のプライベートなプロフィールもオープンにして、信頼を持って付き合うといいます。ロータリアンだから、ロータリアンであればぜひということも一定の格式の信頼があるということも、皆さんもご認識いただきたいとします。ぜひそのポイントを忘れずに。また引退を表明した宮崎駿監督も、ロータリーができた頃、戦争が始まった頃、日本でいう大正時代と、現在非常に似ていると言っていました。いったい先はどうなるのだろうと、我々若者が何かやらなければならないのではないかと、といってロータリーもでき、青年会議所もでき、日本も産業化に向かって、色々な会社が立ち上がり、組合ができていった時代だと思います。戦争という悪い方向に一度は行きましたが、ロータリーという、世界をつなぐ役割で最も国境なきグループである最高の団体であることは間違いないということです。ですので、忙しい中石渡副会長とドイツの地に行ってきたと思いますし、皆さん方友人関係多いと思いますので、たくさんの方をこちらにお連れしていただきたい、という風に思います。次回から、おそらくホームページも公式にオープンしていきなりビジターやゲストの方が来られる場合もある、そのように認識して輪を広げていけたらいいなと思っております。

承認後、栄えある第一回卓話は脇先生、皆さんもよくご存じの脇先生に卓話をいただけるのは大変光栄に思います。宜しくお願い致します。

■9月3日（火）

麻布東京デンタルクリニック 院長

大阪大学大学院臨床講師

脇 智典 様

「生涯自分の歯で美味しく食事をするために今すべきこと」

おはようございます。この度は、東京愛宕ロータリークラブの設立おめでとうでございます。心よりお祝い申し上げます。この前回のキックオフミーティング時に皆さんにお会いしまして、大変素晴らしい方々のご縁を繋いでいただき非常に嬉しく、皆さんと繋がっていけたら、というところに卓話のお声掛けを頂き非常に嬉しく思っております。ありがとうございます。

今日はですね、「生涯自分の歯で美味しく食事をするために今すべきこと」として話させていただきます。今までで歯科を受けた方、ほとんどですね。いろんな形で歯科を受診されたかと思いますが、大変近くに存在します。しかし、皆さんの抱くイメージは、暗くて恐ろしいドリルを持ってこれ...ですが、私たちは、そのイメージから変えていきたいと思っています。私は、アメリカで4年ほど、研鑽を積み、専門医として仕事をしてきました。ロマリンドというカリフォルニアでもロスから2時間のところで、やることは仕事しかない場所でした。2年3か月前にクリニックをオープンし、恐ろしいイメージを変えていきたいという思いの下、基本的にホスピタリティを一番大切にしながらクリニックを作っています。また大阪大学で講師もしながら、一般の方々にも知っていただきたく、セミナーの仕事も受けさせていただいています。皆さんが普段思っていること、それは、世界では常識が非常識なのか、そして日本の現状の問題点をそれを最後にまとめて色々な問題点を解決するために私

たちがすべきこととお話ししていきたいと思ひます。

<日本人の考え>帰国して一番最初に感じたことは、自分の体に対する考え方が違ひ、欧米の文化がすべて素晴らしいとは思ひませんし、日本の方が優れている部分も多いですが、特に健康の部分に対する欧米人の考え方は素晴らしい部分があると思ひます。歯、なくなったら笑顔さえ作れない、話をすること、食事もうそうです。口の健康は、皆さんで話して笑顔で食事をする、と自分の人生で大変大切なことなのですが、あまりこういふ考え方が少ないです。私たちは、皆さんに感じていただきたいのは、年齢を重ねたときにそのことができますか？日本の現状では難しく、家族全員同じものを食べることもさへ難しいのです。28本の歯がありますが、80歳の平均で8.8本、上の歯がほとんどありません。入れ歯でしか対応できず、同じものを食べることは大変難しいのです。そして、日本の医療、命に直結しない部分では非常に制限が多く、現に歯科医療も保険適応が少ないのが現実です。例えば、スウェーデンは税金は高いが、世界中の医療を受けることが可能です。80歳で28本中、25本が残っています。まとめますと、年齢とともに歯を失うことは仕方ない事ではない、世界では、自分の歯で食事をするために残しているんだ、ということです。

アメリカで歯科関係者ではない人に言われた言葉「日本人の口元は何であんなに汚いんだ。」白人文化圏の人は、特に口元を見ています。例えばアメリカ人なら、自分の一番気になる部分は口元。その次に髪や肌がきます。美は客観的なものであり、また時代・地域で異なります。最近アイドルの八重歯が可愛いとありますが、歯科医師的には左側の八重歯は全く機能していません。年齢を重ねたとき、左側の奥が歯周病になったり一気にダメになります。実は犬歯は噛み合わせで大変重要な機能を果たしています。美に対し、自然に対して多くの人は美しいと感じることが多いため、自分の口元をもっと意識して見ていただきたいと思ひます。今まで医療者がやってこなかったこと、正しい情報の伝達と健康を守ることの大切さを伝えてこなかったことがあります。世界でご活躍する皆さん、思っている以上に口元は見られています。「あの人仕事はできるのに口元汚いよね。」平気でそんな言葉が日常的に出てきます。

<自分の口元への価値>1本60~80万円、全体で2千万円と法律的に言われています。野生動物は歯がなければ生きていけません。また人間も、口から食事を取れなくなると、とたんに具合が悪くなっていきます。価値を考えるとともに、健康への意識を高めてください。

<日本の医療の問題点>保険診療制度の制限が多く、アメリカの歯科医師に言われたこと「それは、ガラパゴス諸島だね。」日本の保険診療は歯を一本ずつしか見られないため、パッチワークみたいな治療を繰り返すシステムなのです。口の中全体を見る治療を行うことで、非常に綺麗な口になります。

<メンテナンス>自分の体をメンテナンスしていく習慣を持っていたきたいですね。欧米のエグゼクティブの方々には必ず3・4か月ごとメンテナンスに来られます。治療が入ると忙しい時間を捻出しなければならぬが、メンテナンスならたった一日で済む、という発想なのです。歯ブラシも大切であり、二つ合わせることが大切です。効果として、痛みのある時だけの受診では、60歳以降一気に歯を失います。そして、歯ブラシは月に一回変えた方がいいです。

最後に、とにかく口の中への意識を変えていただきたいです。そして、治療が必要ない体のためにメンテナンスを行っていただければと思ひます。

■今後の予定

9/17 (火) イニシエーションスピーチ：片山謙次 副会長

9/24 (火) テトナングRC合同例会 @ドイツ <東京休会>

10/8 (火) 2750地区研修リーダー 市川 伊三夫様

テーマ「一身(しん)を三世(さんせい)に生く(いく)」

⇒メーキャップの際に、卓話のご案内をしてくださいませ。



~四つのテスト~

1. 真実かどうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるかどうか
- 言行はこれに照らしてから行うべし

国際ロータリー第2750地区

東京愛宕ロータリークラブ

<事務局>

〒106-0044 東京都港区東麻布2-15-2 アンゼン・パックスビル2階

TEL: 03-3568-3827 / FAX: 03-3568-3829 / E-mail: office@atagorotary.com

広報戦略委員長 柳 邦明

<http://atagorotary.com/>

